

SEASON-4

個を育てる異業種交流&
勉強会のお誘い

次世代を担う人材のための

スカイフロントフォーラム 「屋上開発研究会 青山サロン」

屋上開発研究会では、次代を担う意欲があり、既成の概念にとらわれず自由な発想ができ、行動力もあり、好奇心旺盛な、持続する志を持った人たちによる、自分達のための塾「屋上開発研究会（スカイフロントフォーラム）青山サロン」を開いています。

ここでは、これからの地球、これからの暮らし、これからの企業のあり方を様々な立場からまさにボーダーレスに議論し学んでいくことを目指しています。来るべき新しい時代に活躍したいと思っている人の参加を期待します。

特別企画「青山サロン」

SEASON-4

参加システム	対象者：正会員、賛助会員、協力会員、あるいはその紹介者
費用	1000円 当日お支払いください。但し、入金総額から、会場費その他実費を差し引き、講師謝礼とします。
会場	町田ひろ子アカデミー第1教室
申込み	お名前／住所／年齢／会社名 を書いて、メールで下記宛てお申し込みください。 hsuzuki@sky-front.or.jp
懇親タイム	サロン終了後、近くに場所を移して懇親タイムを設け可能な限り講師にも参加していただきます。 名刺交換のために、お名刺を多めにお持ちください。

SEASON-4

参加者募集

個を磨く新しい学びのスタイル

スカイフロントフォーラム
屋上開発研究会 第14回 青山サロン

「都市のヒートアイランド現象と屋上緑化」

～コケ等の軽量・薄層型屋上緑化の話題を中心として～

スナゴケによる屋上緑化の実験結果を中心に、これまでに行ったヒートアイランド現象と屋上緑化に関する研究の概要を紹介させていただきます。

屋上緑化や壁面緑化などいわゆる建物緑化が、ヒートアイランド現象の低減に効果があるということに異論をさしはさむ人はいない。しかしながら、どのくらいの効果があるのかということになると、その数値化には複雑な要素がありすぎて、まだ誰も明確には提示できていない。緑化の効果を数値で示すことができれば、建物緑化は、飛躍的に増大する。それはこのフィールドで実務に携わっている多くの人たちの悲願でもある。

横山仁さんは、そんな業界の熱い視線を背に受けて、日夜研究を続けている研究者の一人。とはいえ、立场上緊急の課題をこなさなければならない事情もあり、横山仁さんが今最も注力しているのが、ゲリラ豪雨の発生メカニズムの解明と事前対策、さらには熱中症対策の研究です。守備範囲の広さと深さに驚かされます。

今回は、多忙な日々を送る横山仁さんに、改めて表題のようなお話をさせていただくこととしました。あなたの知識を豊かな、そして確かなものにするために、ぜひこの機会にサロンご参加ください。

日時 2013年9月20日(金)18:30～20:00

会場 町田ひろ子アカデミー第1教室

東京都港区北青山3-3-1 共和五番館4F

(地図参照)

費用 1000円

講師 横山 仁(よこやま ひとし)

(公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所 副参事研究員

【講師プロフィール】

昭和60年、東京農工大学農学部環境保護学科卒。財団法人日本植物調節剤研究協会、東京都労働経済局農林水産部、東京都農業試験場、東京都八丈島園芸技術センターを経て現在に至る。専門は都市気候学、農業気象学。主に、ヒートアイランド現象に関する研究を行うなかで、特に都市の緑地や緑化による気候緩和効果を中心に研究に従事。博士(農学)。気象予報士。

申込み:

お名前／住所／年齢／会社名 を書いて、メールで下記宛てお申し込み下さい。

hsuzuki@sky-front.or.jp

会場案内図

町田ひろ子アカデミー 東京都港区北青山 3-3-1 3 共和五番館 4F

地下鉄銀座線【表参道】A3出口 徒歩5分

【外苑前】3番出口 徒歩5分



申込み：お名前／住所／年齢／会社名 を書いて、メールで下記宛てお申し込みください。

hsuzuki@sky-front.or.jp

費用は当日受付でお支払いください。

名刺交換のために、お名刺を多めにお持ちください。

講師や異業種の方と話ができる懇親会にもご参加ください。

東京都環境科学研究所の活動内容はこちら

<http://www.live-e.org/sympo/2012/pdf/2012-1.pdf>

横山仁さんの詳しい情報はこちら

<http://www.mpsep.jp/seika/379.html>

「気候変動に伴う極端気性に強い都市創り」

高度に発達した交通網や通信網を有し、数百万以上の人々が生活する大都市には、台風、集中豪雨、落雷、突風などの激しい気象擾乱に対する脆弱性が内在しています。今後の気候変動に伴って懸念される局地的大雨(いわゆる「ゲリラ豪雨」)の多発化や巨大台風の発生は都市型水害の被害を甚大化する可能性が高く、局地的大雨・強風などの極端気象の監視・予測技術の確立は急務です。本プロジェクトは、首都圏を試験地として稠密観測により極端気象の発生機構を明らかにするとともに、その結果をもとに極端気象を早期に検知・予測する手法を開発し、社会実験を通じて実用化することを目的とします。

「三次元数値シミュレーションによる東京 23 区のヒートアイランド対策効果予測」

夏季の晴天弱風日における東京 23 区を対象として、5種類のヒートアイランド対策(緑化推進、保水性舗装、高反射塗装、道路交通排熱削減、建物排熱削減)の導入による気温低減効果を三次元数値シミュレーションによって予測した。対策の導入規模は、15、30 年後の時点で想定される導入量をもとに設定した。これら各時点のヒートアイランド対策導入を想定した計算結果と対策導入前の現状の計算結果との差分により対策の導入効果を評価した。その結果、30 年後の時点で想定される対策の導入による東京 23 区内平均の気温低下量は、日中 0.45℃、夜間 0.2℃程度と予測された。一方、日中の都心部(大手町や霞ヶ関を含む 1600ha)平均の気温低下量は 0.8℃と予測された。また、都心部の風下側で気温低下が大きく現れやすいことが示された。